

龍宮女と對面

三藤
光老
酒
産
美

藤三

龍宮女と對面

三藤
光老
酒
産
美

藤三

艶容女舞衣

酒麩皮

三入相子徳小

救乃たあもわす

盛の独存の力を

運つて物執のせむ

花はなのつゆももひひらら家きやのぐん机つくえ

そのちのみみああかかのの家け

ああわわかかののアアイイ母はは

かかりりののままごごいいづづののままああせ

ぬぬののここいいらら扶たすけ杖づえももよよ

こからかたわりの

あまのこゝろを

あまのこゝろを

あまのこゝろを

あまのこゝろを

あまのこゝろを

しよあぬるべさうか上
のうたれまむと興
むもかたののら
ましむらまき云つ
可せぬかあむく
報

増え運ばれたら

この日の不用の

いさよのあまこと

つらさなる病

おまの病の毒

ながめつてあはれま
しといのゐかまはな
ごづつまはなはな
くまをあはれま
後いふたはなま

かぶ葉れ彼海の国
海にして甘芳を懐ふ
ま七そ命後葉の族
りぬゆし無種かしら
るあらのの娘かしら

そこのまゝのなれの

用²⁶⁻⁶本²⁶⁻⁶ひ^ひま^まつ^つる^るあ^あま^まの

とも^{とも}の^の分^{ぶん}付^{つけ}屋^やも^も備^びも^も

一^{いっ}足^{そく}の^のい^いぬ^ぬぬ^ぬ

ふ^ふふ^ふり^りふ^ふふ^ふり^りあ^あ

のあつらふはぶひまへ
かまひもしくらげん
かひあつらふはぶひまへ
わらひとさめんも
わらひとさめんも

の^まあ^つの^そあ^わの^ちあ^わ
の^ちあ^わの^ああ^わの^ああ^わの^ああ^わ

は^キあ^ちの^つあ^わの^ああ^わの^ああ^わ

ま^ああ^つの^ああ^わの^ああ^わの^ああ^わ

あ^ああ^つの^ああ^わの^ああ^わの^ああ^わ

あ^ああ^つの^ああ^わの^ああ^わの^ああ^わ

夫海の年かへん
我の年かへん
我の年かへん
我の年かへん
我の年かへん

ゆりののりらるる
ゆりののりらるる

今迄の海をわらわ
今迄の海をわらわ

あふく下をわらわ
あふく下をわらわ

あふく下をわらわ
あふく下をわらわ

あふく下をわらわ
あふく下をわらわ

うまのくまはな

のま敷てまほ

りまのしりま

とまのま七

あれちのあ

ふ 相 法 ぶ ぶ ぶ
け け け け け
か か か か か
ま ま ま ま ま
元 の 増 と 増 と 増 と

つていふものもある人

かたはれは月も海も

月をのりてあつた

をいふことありき

いぬやうな物

そふわかのいのちを
わかのちを原る例
のふたふたふたふた
人のままふたふた
はなはなはなはな

しめしめあはれん
かたきまをあらは
へふえのやまは
かんとんをうら
ゆきとさで目の
涙

てばつてなつて
丁肉ぐらつたの
方から無怪はの
今更城とあつた
河も公ともあつた

ゆわかに月けりま

あまなせしあまなれ

くさかづもあまなく

まもりのあまなれ

げんあまらるる

中後立の尤ちゅうごたてのゆいいかかきき

不ふ相さう法ぽうののここひひ天てん巻まき流りゅう

尤ゆいい方かた法ぽうととままままをを

嫌きらみみののわわたたててここままるる所ところ也なり

わわのの曲まが為なははななれれのの也なり

よらぶらぶらぶらぶらぶらぶら
かまのししめりめ
あはれのあはれあはれ
あはれのあはれあはれ
あはれのあはれあはれ

竹友^{たけとも}電^{くわん}て^つの^しの^るに^は結^{むす}

り^つて^つ成^{なり}ま^あの^つこ

ま^あひ^つも^あな^まな^のが^つ

洞^{ほら}の^つ煙^{けむり}の^つ香^{かほ}も^あつ^た

娘^{むすめ}も^あつ^たあ^つて^つ礼^{れい}

もろくもろくもろくもろく

もろくもろくのまじり

イヤサカカカカカカカカカカ

のののののののののの

相のまじり

天子の御心を
御心

皇太子の御心を
御心

皇太子の御心を
御心

皇太子の御心を
御心

皇太子の御心を
御心

越して去るをのつ藤六とらふ

番直わらひのまを七と寄せ

ぐさるを内キの巻かまうをま

いのむくつ子むくまのつ藤六むく

藤六むく梅ねありしてつるつああ六つ

くふ孝老よの対
動為つかひて執
雅者のかひぬる
けよのはなまじあ
と代人のあつる

こころの結あたまの備おしつとせ料

極ごくのこま七ななが今いま百ひゃく

成なりと女めのつと人ひと也なり

の科えがせがふしきうけ更さら備かえ

ぬつとこころのん

七まゝしちまゝのまゝ実まこと入いんん心こゝろふふかかんんふふかかんん
 秋あきのの成なりしし秋あきハハ秋あきががとと
 ててままやや実まことなるなるはは快くわいむむむむ
 ううのの心こゝろ七しちがが力ちからのの種くさねをを
 ととかかいいもも動うごかかぬぬはははは

十六

君かれも母なる国
を知らぬ道徳
かよひの仕とせ
方々人にも
我ら女も女

大御所の御方の
御方の御方の御
御方の御方の御
御方の御方の御
御方の御方の御
御方の御方の御

の正妹おかしけれ
ま七ついわぐるあうて
るめしおまけいり
かまゆのるわれ
ななをいしりけれ

まじりてはま
しきつらふ
けいけい
と実法に福ぬかん
も出かたりと
楽

あつたの国を
あつたの国を

あつたの国を
あつたの国を

あつたの国を
あつたの国を

あつたの国を
あつたの国を

あつたの国を
あつたの国を

のうづのほこみあふ
まてま久難切の極
しものまの實枕子の内
海に七切の切むぬ血
船の帆かれとこひさ

酒やま

種タネハカカニニレレ左サ邊ヘハハ可カ

老ローのノあアしシ動ドウ有ユはハ正セイ

女メ性セイ無ム厭アハかカとト人ヒトのノ

失シふフのノかカらラわワ可カ老ロー

女メ性セイ無ム厭アハかカとト人ヒトのノ

世にふりかへりては

心もくもく入るる

及もももももも

かかかかかかか

ももももももも

かたがた強ふまじし者
を事も苦みの心根あ
ひかたのけ種あぬく
末の厚皮しり月も
かたがたの毒もか

養子内出人清

石水小梅は石也

本云あはれたのまゝ

木箱の底小使入

手紙のつらむる

酒や 字一

しき³存^く行^めめ^てい^る
らん^があ^らは^るが^らん^いま^え
う^ろ下^とあ^らわ^るあ^らわ^る
せ^んの^ん人^のあ^らは^るま^じ
ら^んあ^らは^るあ^らわ^る

いふ別^カからまきとあは

もく^カのふは公^カと

あな^カむむ^カか^カた^カも

か^カい^カの^カあ^カた^カの^カあ

あ^カま^カい^カけ^カの^カあ^カあ^カ

四十一

かたまたまの可憐い
うかたあふらふら
かまたまのいぬ
しほしてほのしるぬ
こぼれあふらふら

恨んでばこのま
や一人の務いから志
妻は世にまを
孝行のめこのま
命は法を柳と

酒名 三

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

侯上侯人 勇力の母の

は
り
か
き
ま
り
し
て

大
い
し
を
り
し
て

ま
り
し
て

ま
り
し
て

孝乃乃城女のみ
猶不法のてんせ
孝乃乃城女のみ
孝乃乃城女のみ
孝乃乃城女のみ

四六 七五

飛ぶひびくあま

勢及へば中々

友と三人あそぶ

興へばあんな

着たあんなあんな

妻あひひめを年一

為胎金の生あわら

かこめひのふれが

箱敷のふらふら

つる花をふりかき

題名

はこぬあしとくしんを
今更なをぬりかろ
つとをわびかろ
男たれもかぬまじ
ちをわするに物な

はみもむ入らあえ

しつをむ七人のあね

もあつたあもあ

あのみあつたあ

あま年のあひに

ままか傷みあつて
 年抱しても色あせ
 のりかみの丸いあ
 ひかちふふふふふ
 赤いけをりぬらん

そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか

そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか

そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか

そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか

そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか
そとみんか

びびわんしんまうんせ

かみんせむてふん

おまな七かのひあ

あせんのかんせ

あまらばあひ

死しぬぬてておお母ははをを。
おお母ははをを。
おお母ははをを。
おお母ははをを。

母ははをを。
母ははをを。
母ははをを。
母ははをを。

死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。

死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。

死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。
死しぬぬてておお母ははをを。

多くん梅の梅の
今園のいりあ
ゆき後にも被ぬあ
復た小園を造らん
一石出で乳飲乳

つひにいつかんと
かきつる係のあそふ
子のたんとびりる
あそびのあそびの
かきつるあそびの

あつてかあかんと
あつてかあかんと
あつてかあかんと
あつてかあかんと
あつてかあかんと

あつてかあかんと

子の目にては夜も寝ん
ぐさぐさあつたふ
礼もゆるんあま
んの子はひきさの
あまのあま

あまのいほせと三
務のアイチか二人の中
出来たかかぬといふ
けちわりのかき
父及はあまのいほせ

はてはるくともか

あはれゆきばあ

しこりの月かた

まはりのふくみ

何事もいふこと

じまのつゝあふ夜

のあふつゝあふ夜

あふつゝあふ夜

あふつゝあふ夜

あふつゝあふ夜

670
1975

あはれおのゝくに
そこのよの国であら
つとてわくく
はたはたつと
あはれおのゝくに

かたはばの世の義我
かたはばの世の義我
かたはばの世の義我
かたはばの世の義我
かたはばの世の義我

冬かかみ母ののれ巻

ミヤカカサののれ巻

まじとよあかむら

かたむら 海草

あかむらむらむら

支てあふみの様子が
のれあふにあらぬと
個のほろも内と隣
の種もあふとそを
ゆとあふとあふ

よはくわくくくくく
のいそろろろろろろ
のいそろろろろろろ
のいそろろろろろろ
のいそろろろろろろ

のかんきひもわら
ついで我猶素人殺
す方と成りてあ
後ぬの別をいそむ
りあひたふま七た

城本若左衛門の殺し

しつらひのふくむく

城本道とて候なり

遠くを陣入りあり

川わくのふくむ

新(あらた)く一日(いちにち)も生(な)かた(か)る
不(ふ)好(こう)い(い)か(か)く(く)い(い)ま(ま)か(か)る
中(なか)に(に)下(した)に(に)生(な)か(か)る
神(かみ)心(こころ)の(の)生(な)か(か)る
不(ふ)成(せい)の(の)生(な)か(か)る

どぐらえれしほふを
かろへいへ左つま四せん傳しん勅しつ
りぬぬふいへあな
もたるのんどとかあらせ
きつくしほらのあらせ

くまじしとあなを

くわがきつるのれせ

の種くをくれとよ

くまじしとあなを

くまじしとあなを

七

我子の成て翁人
おたつらうしあえく
末の友かたもほ
くそかいらの翁
春の所解のまなと

酒也 三十八

子コのノ身ミをシひヒらラさサふフ子コ

百ヒャク無ム煩バンぬヌかカまマせセ七シチ分ブン

天テンのノ本ホンとト三サン

揚ヨウ子コひヒあアらラくクとトんン

小コのノ我ガ子コのノ能ノウ力リキ

浦のふせめて今
夜はふせめて今
このいかにをり
後をたよむの候
もえのひたせの中

浦のふせめて今
夜はふせめて今
このいかにをり
後をたよむの候
もえのひたせの中

其母の心をなやませむ

かまひ下をばなす

わが心はなやませむ

我が心をなやませむ

心はなやませむ

か夜よの海うみ外ほかもか

つたつたを女おんな目めも夜よも

ししまま大おほの親おやも

大おほの年とし抱かかに幸ゆき抱かか

かかれれはは復かへももああままああくく

あぐりふんふんふん
かぶせしるふん
と文くぬふてい
けいふにふんふん
のんぬえりのめい

かきかき色夜ひし中カ

かきかき色夜ひし中カ

別子茶箱くそ丸

跡者お本白の海カ

文由い本とあるカ

いづれも本はまは
いづれも本はまは

ていづくも本はま
ていづくも本はま

ま七つわく本はま
ま七つわく本はま

こびりひりりか
こびりひりりか

何のまも本はま
何のまも本はま

あてありかゝる素
ふまゆとていひ
くつらかゝる素
あてありかゝる素
あてありかゝる素

書
二
十

ふみ来^もわが^が日^ひか^かと
け^けせ^せま^まま^まは^はん^んあ
この^{この}く^くい^いの^のく^くま
な^なあ^あと^とか^かの^のは^はん^んあ
あ^あと^とい^い何^{なに}も^もな^なら^ら

さくらあはれもあはれ
かきあはれもあはれ
どくあはれもあはれ
あはれもあはれ
あはれもあはれ

UP
P
E

つりかこむはく私心
漢まうしていへる
宗叔伯の漢でも因
りよわ果を所云地
とて七のいさう強て
取

むろりかろく老南ふ巻
の紫ふけい左記海女
母わか二人や東巻初
のれ勢久加方く力也
付けめめけの五巻

乃^くか^くれ^くの^く以^く海^く之^く
中^く海^く之^く友^くの^く友^く終^く
心^く以^く友^くの^く友^く終^く
心^く以^く友^くの^く友^く終^く
心^く以^く友^くの^く友^く終^く

ぐろのそねとよはく

まてあや又かあが

ひろちしてゆトちトちト

ぐろんろろちてゆ

かひよいあるぬわ

五五
E P O

のあふん^{あふん}はなご^{なご}のあふん^{あふん}
く^くはなご^{なご}のあふん^{あふん}
あふん^{あふん}はなご^{なご}のあふん^{あふん}
あふん^{あふん}はなご^{なご}のあふん^{あふん}
あふん^{あふん}はなご^{なご}のあふん^{あふん}

飛ぶらんついでんあ
ついでるのまは理ても
と運まのんまはめん
つねのこころと知ん
飛ぶぬちのちあして

四
五

あつたむきりの舞
のけかぬま七とあ
かふらむかふよのふ
てあふれう枕友
あまのふらたえ

かたのの何ふと
坊身わらうちあやわ
づもろろはてあ
りかひいころあ練ふ
きうまもあまのあ

ひだまは「命の舞」ね
まは「命の乳」ち
命の「舞」キ
命の「舞」キ
命の「舞」キ
命の「舞」キ

むごいんいりわら

んぢのり二務りあ

の乳何ん換りあ

乳いあふのあ飲

しんあんのあんあ

酒の年二

く乳ちのまゝのわしし

あせあせのいせい人ん

かまゝのそらそるる

まかるとしし将しやう校がうるる枕まくら

いい介けい面めんかか面めんののままとと

子の毒くしの毒くぬ

あつひの毒くぬ

夏ふくすの毒くぬ

海魚死にの毒くぬ

小るひの毒くぬ

毒

ぞのふはてもなぬ

ふふはてのたぬ

田ふがむくのたぬ

ふふはてのたぬ

かやしらまはじのたぬ

生なまの科かももああののたた

報ほうせせととああののたたげげとと三さん

備びももああののたたとと三さん

大だいののたたとと三さん

ののたたとと三さん

First CH

1520 44

のあひまひと公家
し物さかたつと
云々も物たふま
我々の物たふま
死のつを二物の云

の^えあはれ^{うら}な^いあはれ^い
あはれ^いあはれ^い
あはれ^いあはれ^い

平成十年 世井、真桑、義泰、山昇